

郷土を知り、郷土を愛する

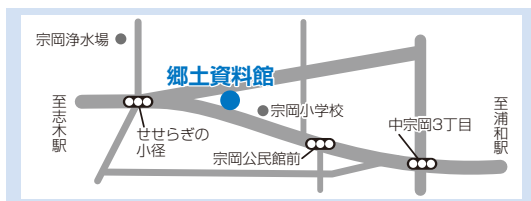
志木市 歴史とんぼ

—— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 ——

第54回 「文化十一年の引又宿古絵図」を読み解く

郷土資料館に展示されている「引又宿古絵図」(志木市指定文化財)は、大型の絵図(173cm×68cm)で墨の濃淡により描かれ、道路や水車などには朱色が加えられています。文化11年(1814)に引又町(現志木市本町)の名主であった星野半平が書き写したものです。古絵図には市場付近を中心に奥州脇往還道の両側に立ち並ぶ家並みや野火止用水・いろは樋・水車・社寺などが手に取るように克明に描かれ、約200余年前の市場付近の様子を彷彿とさせます。

①間断ない家並み：中央に大きな道が描かれ、両側には大小多くの家(東側48軒、西側54軒)



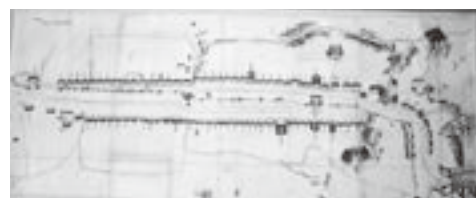
が立ち並んでいる景観は、一大商業地の感を呈しています。ほとんどの家には名前が記され、「草分け三苗」といわれる「三上」「村山」「星野」の名前の家が多く立ち並んでいます。また、名主役を務めていた星野半平家や三上伊太郎家などの家は、一際大きく描かれています。

②野火止用水の橋：市場付近の野火止用水は街道の中央を流れ、両側の道路を往来するためにいくつかの橋が架けられており、富士道付近にあった「萬永橋」は最も大型のもので、現在は敷島神社の境内に保管されています。富士道から昭和道間の野火止用水は街道西側を流れ、西側の家々の前には家ごとに橋が架けられていました。

③高札場と番屋：野火止用水脇には高札場(現・西川医院付近)や番屋(現朝日屋原薬局付近)が描かれています。高札場は幕府や高崎藩の法度などの触れを掲げる施設であり、番屋(自身番)は町の治安には欠かせないものでした。

④田子山塚：古絵図中には「田子山塚」と記載された塚があり、2本の塔婆のようなものが立てられており、富士塚築造(明治5年)以前、すでに小高い塚や塔があったことをうかがい知れます。この塔は現在の浅間神社里宮のご神体「逆修の板碑」と推測されます。

郷土資料館に向き、「引又宿古絵図」の原本を見学してはいかがでしょうか。



▲文化十一年の引又宿古絵図



先ず志木よりはじめよ

4月1日より、志木市役所の開庁時間を1時間短縮し、8時45分から16時30分までとします(市民サービスステーションや柳瀬川駅前出張所などの一部施設を除く)。これは、働き方改革を推進するための取組であり、通年でノーネクタイ・ノージャケットを可とする「ビジネスカジュアル」の導入やテレワーク利用の拡充なども併せた「志木市職員働き方改革推進事業」は、埼玉県内初の取組として新聞メディアにも取り上げていただきました。

このような取組が必要となった背景には、ニュースでも目にするようになった「公務員離れ」があります。志木市の4月入庁の職員採用試験応募者は、平成28年採用では203人でしたが、令和7年採用では104人にまで減少しています。また、埼玉県市長会の調査(令和6年4月1日)によると、県内市の職員1人当たりの人口は平均で146人ですが、本市は192人と、他市に比べて少ない職員数で切り回している状況です。今後のさらなる人口減少と、それに伴う労働人口減少の進行が全国的に問題となっている中、限られた人数で充実した市民サービスを提供し続けるためには、

効率的な行政運営と質の高い人材確保が喫緊の課題となっているのです。

もちろん、開庁時間の短縮により、市民サービスが低下しないことは絶対条件です。志木市では、庁内横断でDX(デジタル改革)推進チームを立ち上げ、この2年間で、電子申請ができる手続きを約7倍にまで増やしており、現在は住民票などの証明書類の申請や児童手当など、250を超える手続きについて、24時間いつでもどこでも、オンラインでの手続きが可能となっています。さらに、市税や上下水道料金のスマートフォン決済も導入し「市役所に行かなくていい」仕組みづくりを推進していることから、市民サービスは低下しないと判断したところです。

また、開庁時間が短くなったからといって、市職員が早めに帰宅するわけではありません。窓口が閉まった後の時間には、翌日の業務に必要な準備や新たな事業の企画立案、業務改善の検討などを行います。また、業務のさらなる効率化に向け、市では自治体専用の生成AIを令和6年5月に導入し、文案の作成や表計算ソフトでの活用、さらには新規事業のアイデア出しなど、さまざまな分野で活用しています。

働き方改革とデジタル改革。この2つを組み合わせたシナジー効果により、これまでの業務スタイルを大胆に見直すことで、新たな人材を呼び込み、市職員のポテンシャルを最大限に引き出し、市民サービスの向上へとつなげます。

「人は城、人は石垣」とは、戦国時代の名将、武田信玄の言葉です。志木市の誇る皆様の市民力に負けないよう、市職員も「職員力」を高め、市民、職員、ともに笑顔が輝くまちづくりに向け、志木市が新たな一歩を、県内の他自治体に先駆けて踏み出します。